

要介護度が重くなると 一人暮らしが困難になります

諏訪広域連合が在宅で暮らす要介護認定者を対象に23年の1月実施した実態調査によると、在宅要介護認定者全体では85歳以上の高齢の方が48.4%と約半分いますが、一人暮らしの在宅認定者も49.1%とほぼ同じ位います。85歳以上更には90歳以上という高齢で心身の衰えから要介護認定を受けながら、自宅で一人暮らしをしている方が沢山いるということになります。

一人暮らしの方の要介護認定度では、要支援1、2と要介護1の方が75%と4分3を占め、軽度のうちは自宅の一人暮らしで頑張っている様子が伺えます。要支援1や2の方は全体では22%ですが、一人暮らしの方では48%と約2倍になりますので、この位では自宅で一人暮らしも容易かと思われれます。要介護1になると27%と要支援などに較べると比率が少なくなり、要介護2ではさらに要介護1の半分位に減りますので、このあたりで一人暮らしが限界になり家族のもとへ住み替えたり施設に入る方が多くなるようです。要介護度が重くなっても自宅で自分らしく暮らし続けられるためには、在宅介護を支援する体制の更なる充実が課題です。

